

PORTS
OF
OSAKA
PREFECTURE

大阪府の



みな

と 2009年10月
No.93

TOPICS

- 東南海・南海地震及び上町断層地震についての講習会開催……………1
- さかいポートラジオが開局しました……………2
- 泉大津フェニックスで野外コンサートが開催されました……………2
- アドト・シーサイド・なぎさ町 泉大津旧港地区の埠頭間連絡道路……………3
- 堺泉北港泉北地区における港湾進出企業の皆さんとの協働美化について…3
- ちきりアイランド(阪南2区)において人工干潟見学会を開催しました……………4
- 「ちきりアイランド(阪南2区)まちびらきイベント開催のお知らせ……………4

EVENT

- 堺泉北港開港40周年特別講演会開催 ～独研、青山繁晴氏が講演……………5
- 堺の夏の風物詩「堺大魚夜市」が開催されました……………5
- 泉大津フェスタ2009 Eポート交流大会「きららカップ」などが開催されました…6
- 青少年サマーセミナー2009「海をもっと知ろう～海が地球を救う～」開催…6
- 第57回岸和田港まつり……………7
- 海上保安庁の巡視船艇による体験航海行事……………7

PORT NEWS

- WELCOME!世界からのお客様……………8

INFORMATION

- 平成21年度港湾視察 ～茨城港……………8
- 平成21年度理事会・通常総会……………9
- 大阪府港湾局長感謝状贈呈式……………9
- 運営委員会……………9

記念講演

- 2015年「アセアン共同体」に向けた現状と展望～ベトナム・ラオス・カンボジアを中心にして……………10

TOPICS

東南海・南海地震及び上町断層地震についての講習会開催……………1
さかいポートラジオが開局しました……………2
泉大津フェニックスで野外コンサートが開催されました……………2
アドプト・シーサイド・なぎさ町 =泉大津旧港地区の埠頭間連絡道路=……………3
堺泉北港泉北地区における港湾進出企業の皆さんとの協働美化について…3
ちきりアイランド(阪南2区)において人工干潟見学会を開催しました……………4
「ちきりアイランド(阪南2区)」まちびらきイベント開催のお知らせ……………4

EVENT

堺泉北港開港40周年特別講演会開催 ～独研、青山繁晴氏が講演～……………5
堺の夏の風物詩「堺大魚夜市」が開催されました……………5
泉大津フェスタ2009 Eポート交流大会「きららカップ」などが開催されました…6
青少年サマーセミナー2009「海をもっと知ろう～海が地球を救う～」開催…6
第57回岸和田港まつり……………7
海上保安庁の巡視船艇による体験航海行事……………7

PORT NEWS

WELCOME!世界からのお客様……………8

INFORMATION

平成21年度港湾視察 ～茨城港～……………8
平成21年度理事会・通常総会……………9
大阪府港湾局長感謝状贈呈式……………9
運営委員会……………9

記念講演

2015年「アセアン共同体」に向けた現状と展望～ベトナム・ラオス・カンボジアを中心にして～…10

東南海・南海地震及び上町断層地震についての講習会開催

大阪府港湾局総務企画課危機管理グループ

近い将来、その発生が懸念されている東南海・南海地震による津波は、前回、1944年（東南海地震）と1946年（南海地震）に発生しました。その後、わが国は高度経済成長期を経て、臨海部は埋め立てられ、港湾施設やコンビナートが建設されてきました。海岸線の状況は大きく変わりましたが、同時に台風や津波に備え、防潮堤・水門・鉄扉等の整備により防災対策が進められてきました。津波による被害を想定し、その対策を確立することは、迅速な復旧を果たすために必要不可欠なことです。講習会では、港湾区域においてどのような被害が想定されるか、また、被害を軽減するために港湾局はどのような対策を進めているかについて説明をさせていただきました。参加して頂いた皆様には、当日得られた知識を今後、防災意識を高めるために活かして頂ければ幸いです。

【日時】 平成21年7月29日(水)
午後1時30分～3時00分

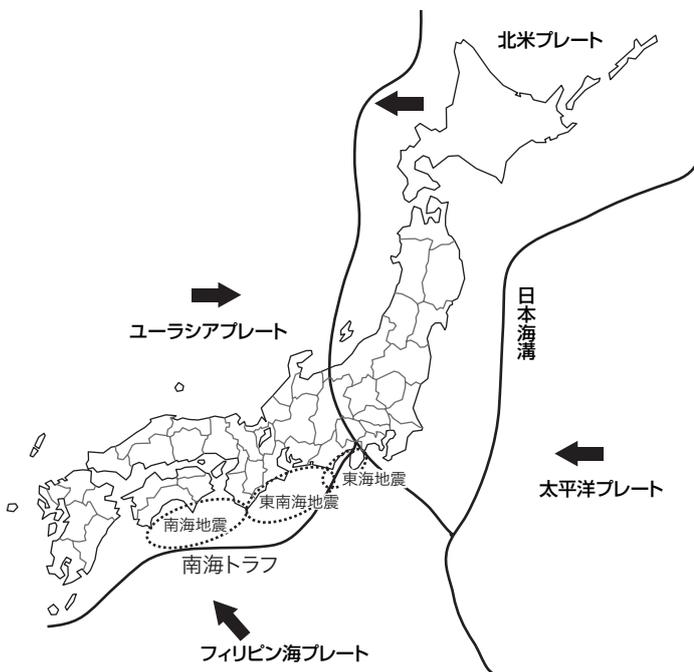
【参加者】 大阪府タグ事業協会
(防災対策委員・タグ乗組員等25名)

【場所】 堺泉北港ポートサービスセンタービル (2F会議室)

【題目】 「東南海・南海地震及び上町断層地震について」

【内容】

- ・東南海・南海地震の発生メカニズムとその特徴
- ・大阪湾に來襲する津波
- ・津波による浸水想定区域
- ・東南海・南海地震の震度分布
- ・大阪府津波対策大綱
- ・港湾局が推進する津波対策
(防潮施設の保全及び改修・防災スピーカーの設置・水門等の機能高度化・避難訓練及び防潮施設操作訓練の実施・津波啓発看板の設置など)



東南海・南海地震とは？

- 東南海地震は東海～紀伊半島、南海地震は紀伊半島～四国の沖合いにある南海トラフと呼ばれる太平洋の海底4000mのプレート内で起きる海溝型の地震
- 過去100～150年の周期で繰り返し発生する
- 周期が長く、揺れている時間が長い
- 広範囲に揺れ被害が拡大する
- 大きな津波が発生する

さかいポートラジオが開局しました

大阪府港湾局振興担当部施設運営担当課

関西経済の活性化、国際競争力の強化の観点から大阪湾諸港の港湾管理者の連携強化が求められています。その一環として、このたび各港湾の「安全で効率的な船舶の運航支援」を図るため、共同で港務通信業務に使用する共通設備を新たに整備し運用を開始することとなりました。

これにより、これまで堺泉北港(阪神港堺泉北区)及び阪南港を利用する船舶の安全な入出港や非常時の人命の安全確保などのため、「おおさかポートラジオ」を通じて情報提供を行ってきましたが、平成21年7月1日から新たに港務信用海岸局「さかいポートラジオ」を開局し、安全で効率的な船舶の運航を支援するべく次のとおり運用させていただくことになりましたので、ご理解ご協力をお願いします。

■さかいポートラジオの運用

①呼出、応答 CH 16 通信 CH 11,12,18,19,20 (19,20を優先使用)

②船舶からの通報及びポートラジオからの情報提供

	通報する時間帯	船舶から通報する情報	ポートラジオから提供する情報
入港時	入港2時間前	B/W通過予定時間	入港スケジュール
	最初の入港連絡以降に、変更が生じた場合	B/W通過予定時間の変更	入港スケジュール、管制情報、他船行き会い情報
錨泊時	友が島/明石海峡通過時	投錨(アンカー)予定時間	
	投錨(アンカー)後	投錨時間/ボジション	入港スケジュール
	抜錨(アンカーアップ)時	錨地スタート時間 B/W通過予定時間	管制情報、他船行き会い情報
出港時	離岸前(シングルアップ時)	離岸予定時間	管制情報、他船行き会い情報
	離岸前の連絡以降に変更が生じた場合	離岸予定時間の変更	管制情報、他船行き会い情報

ポートラジオから最新の内容を連絡できるようCH16の聴取をお願いします。

※B/W Break Water (防波堤)

③対象船舶 堺泉北港(阪神港堺泉北区)…全ての外航船舶と総トン数500トン以上の内航船舶
阪南港…全ての外航船舶

④各代理店、関係者の方へのお願い

船舶の入出港担当者は、下記情報の連絡にご協力をお願いします。また変更が生じた場合も連絡をお願いします。

①代理店名「担当者名」	②船名、コールサイン、総トン数	③バース名
入港時の予定情報	出港時の予定情報	
④港外到着時間 ⑤投錨時間、錨地(錨泊時)	④離岸時間、管制時間	
⑥抜錨時間(錨泊時)	⑤B/W通過時間	
⑦B/W通過時間、着岸時間、管制時間	⑥水先人の有無	
⑧水先人の有無 ⑨タグの隻数 ⑩着舷	⑦タグの隻数	
⑪前港	⑧次港	

(参考) 共通通信設備で運用する無線局一覧 (呼出応答は、全てCH16)

免許人	通信対象船舶 下記の港湾を利用する船舶	呼出名称
大阪府	阪神港(堺泉北区)、阪南港	さかいポートラジオ (新規開局)
兵庫県	阪神港(尼崎西宮芦屋区)	あまがさきポートラジオ (新規開局)
大阪市	阪神港(大阪区)	おおさかポートラジオ
神戸市	阪神港(神戸区)	こうべポートラジオ
内海水先区水先人会(水先業務)		インランドシーパイロットこうべ
大阪湾水先区水先人会(水先業務)		おおさかベイパイロット

連絡先「大阪通信所」 電話 06-6615-7071 FAX 06-6615-7074

Email : osakaportradio@toyoshingo.co.jp

大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪ワールドトレードセンタービル44階

泉大津フェニックスで野外コンサートが開催されました

大阪府港湾局振興担当部開発調整担当課

港湾局では、堺泉北港におけるにぎわいづくり、また泉大津フェニックスの知名度向上を目的として、平成17年から野外コンサートを誘致しています。

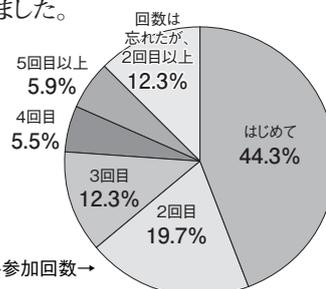
5年目となる今年は、下記の2公演(2日間)が開催されました。晴天にも恵まれ、約3万人もの観客が集まり、大きな盛り上がりを見せました。

●8月30日(日)「RUSH BALL 09」

来場者数:15,000人

●9月 5日(土)「OTODAMA'09」

来場者数:11,300人



来場者の泉大津フェニックスでのコンサート参加回数→



アドプト・シーサイド・なぎさ町 =泉大津旧港地区の埠頭間連絡道路=

大阪府港湾局振興担当部施設運営担当課

「アドプト」には、養子縁組という意味があります。大阪府アドプト・シーサイド・プログラムは、港湾局が管理する海岸や港湾の一定区間を養子にみたと、住民が里親となって養子の面倒をみていく。つまり地元自治会や市民グループなどの団体が、海岸や港湾をわが子のように大切に思い、自主的かつ継続的に美化活動を実施していこうというもので、これを関係市町と港湾局が支援することにより、地域に愛されるきれいな海岸・港湾環境の保全に取り組むものです。

港湾局では、泉大津旧港地区の埠頭間連絡道路において第一警備保障株の皆さんがアドプト・シーサイド・プログラムに取組んでいただけるということで、平成21年7月9日に臨港道路では2箇所目となる「アドプト・シーサイド・なぎさ町」を認定しました。

第一警備保障株は、港湾局が平成20年度から実施している港湾事業者との協働美化において、小松、汐見の2埠頭で参加するとともに、まちの美化が防犯につながるという考えを持っておられ、港湾局としては、同社の環境維持活動に大いに期待しています。

また、平成21年7月15日には、第1回アドプト活動が同社の社員研修の一環として実施されました。



アドプト活動後の記念撮影(第一警備保障株の皆さん)



実施区間(泉大津旧港地区埠頭間連絡道路 約500m)
「なぎさ町交差点～水上警察署泉州警備派出所前交差点」

堺泉北港泉北地区における港湾進出企業の皆さんとの協働美化について

大阪府港湾局振興担当部施設運営担当課

大阪府港湾局では、港湾地域の環境悪化が著しい状況にある堺泉北港泉北(泉大津)地区の4埠頭の環境改善のための取組みのひとつとして、行政と港湾進出企業の皆さんとの協働による定期的な美化活動について、平成20年度から各埠頭の港湾進出企業でつくる協議会(泉北4区懇話会、泉北港港運協議会、泉北6区協議会、汐見埠頭協議会)及び泉大津市港湾振興室と協力して実施しています。

平成21年度第3四半期の予定は下記のとおりですので、協議会への加入、未加入を問わず協力いただける企業の皆さんは是非ともご参加いただきますようお願いします。

また、環境悪化の一因として、港湾を一時的にしか利用しない港湾関係車両運転手によるポイ捨てゴミもあるかと思われますことから、各企業におかれましては、関係車両運転手へのポイ捨て防止の周知・啓発についてもご協力をお願いします。

■平成21年度 第3四半期 協働美化実施予定表

実施月	地区(埠頭)	日時	集合場所
10月	泉北4区(松の浜)	10月14日(水) 15:00~17:00(雨天翌日順延)	実施済
	泉北7区(汐見)	10月24日(土)9:00~11:00(雨天中止)	汐見港湾労働者福祉センター駐車場
11月	泉北5区(小松)	11月24日(火)12:30~14:30(雨天中止)	阪神高速道路株式会社 泉大津交通管理基地前
	泉北6区(助松)	11月16日(月)14:00~16:00(雨天中止)	助松埠頭港湾労働者福祉会館駐車場
12月	泉北4区(松の浜)	12月15日(火)15:00~17:00(雨天翌日順延)	集合しません。各企業の皆さんは、隣接する道路の清掃をお願いします。
	泉北7区(汐見)	12月19日(土)9:00~11:00(雨天中止)	汐見港湾労働者福祉センター駐車場

ちきりアイランド(阪南2区)において人工干潟見学会を開催しました

大阪府港湾局振興担当部開発調整担当課

岸和田市の沖合いにあるちきりアイランドにおいて、8月8日(土)に岸和田市教育委員会・きしわだ自然友の会の主催、ちきりアイランド(阪南2区)まちづくり会の協力による、一般向けの人工干潟見学会が開催されました。約4倍の競争率の中、抽選で選ばれた40名が、普段立入禁止になっている人工干潟で生物観察を行ないました。

また、9月初旬から中旬にかけて毎年恒例となっている、岸和田市の小学生向けの人工干潟見学会を大阪府港湾局などの関係機関が開催しました。東葛城小学校、山滝小学校、中央小学校、浜小学校の合計約150名の児童が、ちきりアイランドの埋立てやゴミのゆくえ、大阪の海岸や津波・高潮についての授業の後、人工干潟で生物観察を行ないました。ヤドカリやカニなどの干潟の生物と触れ合うことで、海をより一層身近に感じてもらえたと思います。



一般向け人工干潟見学会



小学生向け人工干潟見学会

「ちきりアイランド(阪南2区)」まちびらきイベント開催のお知らせ

阪南港港湾振興連絡協議会

岸和田市沖の「ちきりアイランド(阪南2区)」では、進出した企業が工場の操業を始めるなど、新たな「まち」が生まれようとしています。

そこで、岸和田市制誕生日である平成21年11月1日に合わせて「まちびらき式典」と「記念イベント」を開催します。

「記念イベント」では地元の名産品を取り揃えた物産展やタレントの月亭八光さんによるオープニングイベント、親子で楽しんでいただけるチリモン探しや移動水族館など様々な催しをご用意しております。みなさんのお越しを心よりお待ちしております。

1.開催日時 平成21年11月1日(日)午前11時30分～午後3時00分

2.開催場所 ちきりアイランド(阪南2区)

(財)大阪府都市整備推進センター阪南事業所敷地内
(岸和田市岸之浦町9番地)

3.プログラム 10:00 まちびらき式典

(※関係者のみの参加です。一般参加はできません)

11:30 記念イベント

(15時まで)・オープニングイベント(月亭八光)

・物産展(まぐろの解体ショー、地元名産品の実演販売など)

・進出企業ブース(ちきりアイランド進出企業の紹介ブース)

・チリモン探し、万華鏡作り ・移動水族館

4.お問い合わせ先

大阪府港湾局振興担当部経営振興担当課(阪南港港湾振興連絡協議会事務局) TEL:0725-21-7203

5.詳細情報 大阪府港湾振興ウェブサイト <http://www.osakaprefports.jp> (物産展の詳細情報を掲載)

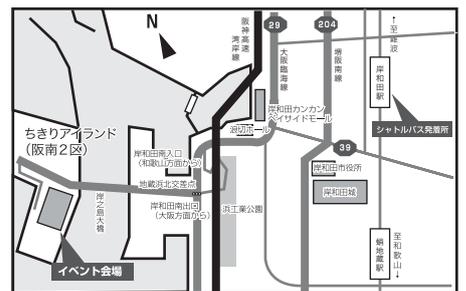
※雨天時は原則として中止します。

◆まちびらき式典 主催 大阪府、岸和田市

◆記念イベント 主催 阪南港港湾振興連絡協議会(大阪府、岸和田市、貝塚市、忠岡町)

協賛 ちきりアイランドまちづくり会(大阪府、岸和田市、財団法人大阪府都市整備推進センター)

後援 大阪府港湾協会、岸和田港振興協会、貝塚港湾振興会



堺泉北港開港40周年特別講演会開催 ～独研、青山繁晴氏が講演～ 堺泉北港港湾振興連絡協議会



府営港湾堺泉北港が今年開港40周年を迎えたことを記念して、平成21年8月21日(金)特別講演会を開催しました。平日の昼間にも関わらず、参加者はおよそ400人に及び、関心の高さをうかがわせました。

開会にあたり、主催者を代表して大阪府港湾局の中尾恵昭局長が挨拶に立ち、「(堺泉北港では)今年10月にはシャープ堺コンビナートが稼働を予定するなど大阪湾ベイエリアの一層の発展に貢献するものと考えている」と語りました。また、来賓を代表して近畿地方整備局の上総周平局長が祝辞を述べられ、「堺泉北港は防災拠点、ハイテク産業拠点といった新たな役割が求められており、当局としても堺泉北港が産業競争力の強化などに寄与できるよう努めたい」と語りました。

講演に先立っては、泉大津市立東陽中学校吹奏楽部によるブラスバンド演奏も行われ「少年時代」「キセキ」など、4曲を演奏。中学生ながら見事な演奏に会場からは大きな拍手が送られました。

講演会の講師は、株式会社独立総合研究所代表取締役社長・兼・首席研究員の青山繁晴さん。「日本の希望」と題してご講演いただきました。青山さんは、舞台を下り、会場内をマイク片手に歩きながら、時には参加者にも質問していく独特の講演スタイル。

講演では、8月30日に迫った衆院選に触れ「今回の衆院選では日本経済を発展させるための外交・安全保障の問題が争点となっていない」「大手自動車メーカーにレーサーの資格を持った社長が就任した。歴史の古い会社でも大きな発想の転換が行われ、世界の投資家はそこに注目している」「日本の主人公は僕たち国民一人一人。日本をどのような国にするかは僕たちにかかっている」「僕たちの世代は、学校で祖国にプライドを持つことを教えられなかったが、プライドも何も持たずにどうして世界に出てまともなビジネスが出来るのか」など、様々な観点から熱弁をふるっていただきました。

さらに、「私たちが忘れていた領土」と前置きし、「日本の希望」「生きるヒント」として太平洋戦争の激戦地である硫黄島についてお話いただきました。

予定時間を約50分超過し、長時間に及ぶ講演となりましたが、参加者に実施したアンケートでは大多数の方から「もっと青山さんの話を聞きたい」「大変感動した。勉強になった」など大変好評でした。

また、会場の外では堺泉北港の歴史や現況を紹介するパネル展示も行われました。

●プログラム

13:30 主催者代表挨拶 大阪府港湾局長 中尾 恵昭

祝辞 近畿地方整備局長 上総 周平 様

13:50 ブラスバンド演奏 指揮:田代 秀史 先生 演奏:泉大津市立東陽中学校吹奏楽部

14:30 講演「日本の希望」講師:青山 繁晴 氏

(株式会社独立総合研究所 代表取締役社長・兼・首席研究員)



中尾大阪府港湾局長挨拶



上総近畿地方整備局長祝辞



泉大津市立東陽中学校吹奏楽部演奏

堺の夏の風物詩「堺大魚夜市」が開催されました

堺港湾振興会

平成21年7月31日(金)、堺の夏の風物詩「堺大魚夜市」が堺市堺区大浜公園で開催され、浴衣姿の来場者など約24万人で賑わいました。

大魚夜市は700年前、泉州周辺地域の漁師が「航海の神」「漁業の神」として信仰していた住吉大社(大阪市住吉区)に航海の安全と豊漁を祈念し魚を奉納した際、同時に新鮮な魚を一般客に向けて売り始めたのが起源といわれ、毎年7月31日に開催されています。

堺大魚夜市の目玉イベントの魚セリには28団体(計29台)が参加。19時からスタートすると、約100メートルにわたって並べられた魚セリ台の上からは「安いで、買ってや、買ってや!」と威勢のいい掛け声が飛び交い、タイやサザエ、カニなどの新鮮な海産物があっという間に売り切れました。

会場では堺東高校などが企画・出演した「ゆかたまつり」、今年初めて実施したライブイベント「HIGH SCHOOL FUNKY NIGHT」や歴史色豊かな「包丁式」「古式セリ」、地元企業・団体等による「PRブース」、懐かしい夜市の様子を集めた「昔の夜市写真展」など、お子様からお年寄りまで楽しめるイベントが繰り広げられ、会場は熱気に包まれました。



泉大津フェスタ2009 Eボート交流大会「きららカップ」などが開催されました

泉大津港湾振興会

関西国際空港の開港により誕生した、泉大津市なぎさ町の「きららタウン泉大津」を“人と人のふれあいの場”として広く市民にPRするために、各種機関、市民団体による手づくりのイベントが開催されました。

5月24日(日)に予定されていた「泉大津フェスタ2009」が新型インフルエンザの影響により中止となりましたが、「海の日」の前日7月19日(日)には「泉大津フェスタ2009第2部」として、『Eボート交流大会「きららカップ」』と泉大津ヨットクラブの協力による「ヨット体験乗船会」が開催され、合わせて約700人のひとが参加し、本振興会も協力しました。

真夏の強い日差しの下、Eボート交流大会は、泉大津旧港内で行なわれ、1艇につき10名が乗り組み、100mコースを折り返す200mをタイムで競うレースです。

今年は、大人の部、子どもの部それぞれ19チームが参加し、各チームとも応援団の大声援を受けて、思ったとおりにまっすぐに進むチームやコースをはずれて大きく旋回するチームがあるなど白熱した大会となりました。

優勝は、大人の部は昨年と同じく「SKYFISH」、子どもの部は、「ランナーズ」チームでした。

また、「ヨット体験乗船会」では、小学生4年～6年とその保護者41名が乗船体験をしました。初めてヨットに乗船するひとは、緊張の面持ちで海上保安庁の職員から救命具の着用の説明を聞いていましたが、乗船中は手を振るなどなごやかな雰囲気海に親しんでいました。

本振興会は今後も、各団体と連携をして、市民が海や港に親しむ機会をつくり、海への理解を一層深めるとともに、堺泉北港の振興を通じて各企業の発展に努めてまいりますので、皆様のご協力をお願いします。



青少年サマーセミナー2009「海をもっと知ろう～海が地球を救う～」開催

大阪府立大学第18回青少年サマーセミナー実行委員会

大阪府港湾協会の後援により、本年も去る7月18日(土)、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにおいて、「青少年サマーセミナー2009」が開催されました。本年度は開催内容に合わせて専用の実験スペースを準備し、一日限りの開催で22名の参加がありました。

今年度のテーマは、2回目の開催となる「海をもっと知ろう～海が地球を救う～」。

午前中は、実験を通して地球上に海があることが気温の急激な変化を抑制すること、二酸化炭素が海水に溶けて海洋植物によっても光合成が行われることを体験し、気候調節機能に占める海の役割を学びました。午後は、復習をして、エビ、水草、砂利をつかって小さなビーカー内にミニ生態系を作りました。

18回目となった今年も子どもたちの笑顔と共に無事終了することができました。本誌面をお借りして、本会の開催にあたりご尽力いただいた関係各位にお礼申し上げます。



第57回岸和田港まつり

岸和田港振興協会

今年で57回目を迎えた岸和田港まつりは、7月25日(土)に花火大会、8月1日(土)に巡視船体験航海が行われました。

7月25日(土)は朝から港まつりの無事を祈って、浪切神社で安全祈願祭が行なわれました。花火大会は、岸和田市民のみならずたくさんの方が来られて賑わう岸和田の夏の風物詩です。今年は日中に大雨が降った影響もあって、観覧客の出足は少し鈍かったようですが、打ち上げの時間が近づくとつれ、たくさんの方で賑わいました。岸和田港の夜空に1時間にわたって打ち上げられる勇壮な花火の数々に、観覧客から多くの歓声がわきおこり、その迫力と美しさに魅入っていました。

8月1日(土)に行われた巡視船体験航海では、海上保安庁の協力により、今年新しい巡視船「よしの」、岸和田海上保安署の巡視艇「あやめ」に、体験航海の抽選に当選された岸和田市民の皆さんが乗船し、航海を満喫されました。航海は阪南港を出航後、関西国際空港連絡橋をくぐり抜け、間近で離着陸する飛行機を臨み、阪南港沿岸を周遊しました。

また航海途中には、海上保安庁のヘリコプターが船の間近までやって来て、その迫力に市民の皆さんはとても喜んでおられました。

岸和田港振興協会では、港と海への関心を高め、港湾の振興を図ることで、多くの方に港や海の素晴らしさを伝えていきたいと考えております。今後とも岸和田港まつりを続けてまいりますので、引き続きご関係者の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

後援:第五管区海上保安本部、大阪府、大阪府港湾協会



花火大会



巡視船体験航海

海上保安庁の巡視船艇による体験航海行事

貝塚港湾振興会

平成21年8月2日(日)、海上保安庁より巡視船「よしの」及び巡視艇「あやめ」等の派遣を受け、体験航海を実施しました。

朝方の大雨のため、午前の部はやむなく中止となりましたが、午後には一転、快晴となり、134名の公募による市民が参加されました。

巡視船「よしの」は、今年3月に就役したばかりの最新鋭巡視船ということもあり、乗船者は興味津々の面持ちで船内を見学されていました。また、保安官管理の下、操縦席に座らせてもらったり、双眼鏡をのぞかせてもらったりした子どもたちは、貴重な体験に目を輝かせていました。

新貝塚埠頭から関西国際空港周辺海域までの航海途中には、巡視艇「あやめ」と警戒のために配備された巡視艇「しぎかぜ」、「よどぎく」による高速船隊運動や、海上保安庁のヘリコプターとの連携訓練が目の前で繰り広げられ、乗船者からは大きな歓声があがりました。

さらに、岸壁では、海上保安庁のマスコット「うみまる」との記念撮影コーナーが設けられ、記念写真をとる家族連れで大いに賑い、盛況のうちに終了しました。

今後も、貝塚港湾振興会では、海事思想の普及と港湾振興に努めてまいりますので、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

後援: 近畿運輸局・大阪府港湾協会・大阪府

(社)近畿海事広報協会・(財)大阪港湾福利厚生協会

貝塚市



●2009年9月8日(火) 大阪府港湾局表敬訪問

仁川港湾公社及び大宇 SHIPPING(韓国)

仁川港湾公社	LEE,Beom-Ran	GENERAL MANAGER
	YOON,Sang-Young	DUPTY GENERAL MANAGER
大宇 SHIPPING	KIM,Jang-Hyun	STAFF
	BOO,Hee-Yoon	STAFF

大韓民国仁川港の運営主体仁川港湾公社と同国船社の大宇 SHIPPINGの方々計4名が、大阪府港湾局を訪問されました。堺泉北港の概要について紹介後、助松埠頭を視察されました。



INFORMATION

協会だより

●平成21年度港湾視察 ～茨城港～

港湾視察事業は、会員の皆様が、他港湾の先進的な取り組みや振興対策、港湾施設の実態などを視察することによって見聞を広めるとともに、日常業務に役立てていただくことを目的に実施しています。

今年度は、平成21年9月17日(木)から18日(金)にかけて茨城港を視察し、26名(事務局を含む)のご参加をいただきました。

【茨城港の概要】

茨城県北部に位置し、日立市、那珂郡東海村、ひたちなか市、東茨城郡大洗町にまたがる重要港湾です。平成20年12月、日立港、常陸那珂港及び大洗港の3つの重要港湾を統合し、茨城港が誕生しました。重要港湾同士の統合としては、全国初の試みです。

茨城港は、海に面していない後背地の群馬県、栃木県の海の玄関口として発展してきました。特徴としては、(1)東京湾諸港を除き東日本で唯一の水深14m岸壁を有するなど港湾施設の整備が着々と進捗していること。(2)欧州、北米、韓国・中国と世界各地にコンテナ・RORO航路が結ばれているほか、北海道航路が週31便運航するなど外貿、内貿ともに定期航路が充実していること。(3)北関東自動車道と直結し東京都内の慢性的な道路渋滞を回避できる点で京浜港とくらべアクセス面で有利であることが挙げられます。

【行程】

第一日目 茨城港常陸那珂港区視察

○茨城港概要説明(於 ひたちなかテクノセンタービル内)

ビデオによる茨城県、ひたちなか地区の紹介後、茨城県土木部の佐々木港湾振興監から茨城の港について次のような説明を受けました。

- ・ 3港湾の重要港湾の統合による効果として、取扱貨物量の全国ランキング(3港湾合計全国38位、2007年統合前データ)アップによるブランド力の強化、コンテナ・RORO・バラ貨物・

フェリー貨物が一つの港で取扱い可能、港湾施設の利用手続きの一元化などが期待されている。

- ・ 常陸那珂港区では、定期RORO航路の東京港からのシフトにより、常陸那珂一苦小牧間のRORO航路が今年8月から1日2便に増加した。昨年末から本格的に中古自動車の輸出が開始され、今後、輸出台数約2000台/月が見込まれるなど今年の貨物取扱量が上昇する見込み。
- ・ 常陸那珂港区の内航フェリー航路は、他港湾では扱わない大型建設機械や危険物などを取扱うことで独自性を出している。

○現場視察

展望台から常陸那珂港区の全景を見学した後、貸切バスで港内を視察しました。

第二日目 J-PARC(大強度陽子加速器)センター視察

○概要説明後、物質・生命科学実験施設等センター内見学(説明者:日本原子力研究開発機構J-PARCセンター 鈴木広報セクションリーダー)

大強度陽子加速器とは、光速に近い速さまで加速された陽子を、標的となる金属の原子核に衝突させることにより二次粒子(中性子、中間子)を発生させる装置です。

J-PARCセンターでは、この装置を企業や研究者向けに利用させることにより、多岐にわたる分野の研究・開発を行う施設です。難病治療薬やリチウムイオン電池などの実社会に役立つ成果が出ることで期待されています。



●平成21年度理事会・通常総会

平成21年7月14日(火)リーガロイヤルホテル堺において大阪府港湾協会第60回理事会及び通常総会を下記のとおり開催しました。

- 1 開会挨拶 金盛 弥 会長
 - 2 来賓祝辞 国土交通省近畿地方整備局長
(代理:大阪港湾・空港整備事務所長 坂 克人) 様
近畿運輸局長(代理:海事振興部次長 保田 全規) 様
大阪海上保安監部長 小森田 重寿 様
大阪税関長(代理:堺税関支署長 渡辺 数馬) 様
大阪府港湾局長 中尾 恵昭 様
 - 3 来賓紹介・祝電披露
 - 4 議 事 (議長:西岡 直也 山九株式会社泉北支店長)
第1号議案:平成20年度事業報告並びに収支決算報告について
第2号議案:平成21年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について
第3号議案:大阪府港湾協会会則の改正について
- 以上、第1号から第3号議案について各々審議を行い、原案どおり可決承認されました。
その他：報告事項



●大阪府港湾局長感謝状贈呈式

と き：平成21年7月14日(火) ところ：リーガロイヤルホテル堺 3階「橋の間」
主催：大阪府港湾局

「港湾振興」及び「海岸及び港湾の愛護」に功績のあった方々に対して、中尾港湾局長から感謝状の贈呈が行われました。

また、感謝状を受けられた方々に、大阪府港湾協会総会後の交流会において、金盛大阪府港湾協会会長より記念として、ガラス製の盾が贈られました。

●藤川 剛氏

社団法人大阪府タグ事業協会に、創立時から36年間の長きにわたり勤務。この間、同協会の先導的立場に立ち、大阪府営港湾に出入港する大型船舶の離着岸を補助するタグボートの適船適馬力の配船業務に従事するかたわら、大阪府港湾局をはじめ関係官庁・諸団体と協力し、海難事故、船舶火災、流出油事故など大阪府営港湾における災害防止に努め、港湾振興に多大な貢献。

●「企業による森づくり連絡調整会」の企業・団体(飯坂製粉(株)、(株)エヌティーシー、コスモ石油(株)、堺泉北埠頭(株)、東亜建設工業(株)、東洋建設(株)、“ニッセイの森”友の会、三井金属鉱業(株)、(財)三菱UFJ環境財団、森田化学工業(株)の皆様

平成18年6月に設置された上記連絡調整会の一員として、設立当初より継続的に堺7-3区共生の森づくりの緑化活動を実施。

年1回の植樹イベントでは、社員の参加のほか、イベントに必要な物資や資金の提供、参加者への炊き出しなど、参加者への活動支援を積極的に行ない、良好な港湾の形成に多大な貢献。

●運営委員会

<第2回>

日時：平成21年9月29日(火) 10:15～ 場所：ホテルサンルート関空 4階「若菜」

議事：①平成21年度在阪国家機関等に対する要望等について

②その他



2015年『アセアン共同体』に向けた現状と展望 ～ベトナム・ラオス・カンボジアを中心にして～

講師：流通科学大学 情報学部 経営情報学科
教授 上田 義朗 氏



平成21年7月14日(火)、リーガロイヤルホテル堺において、大阪府港湾協会平成21年度通常総会が開催されました。

記念講演として、流通科学大学情報学部経営情報学科教授の上田義朗氏を講師としてお招きし、「2015年『アセアン共同体』に向けた現状と展望～ベトナム・ラオス・カンボジアを中心にして」と題し、講演を行っていただきました。約1時間にわたる講義は、参加者のみなさんにとって有意義なものとなりました。

<講演要旨>

1 はじめに

本日は、アセアン諸国10カ国ある中でも、特にインドシナ半島あるいはメコン川流域国と言われるベトナム・ラオス・カンボジアを中心とした地域の動向についてお話をしたいと思えます。この分野については、研究されている大学の先生や研究者はなかなか少ないのが現状です。ベトナム・ラオス・カンボジアを個別に研究されている先生はおられますが、3国を合わせて研究している先生は非常に少ないため、そのことが私の研究の独自性になっているところでございます。

1994年、ダイエー創業者の故・中内功氏を総隊長、私が実行委員長を務めた流通調査隊がベトナムを訪問したことが、私とベトナムとの関係の始まりです。その後の1998年に約1年間ハノイに在外研究員として留学し、1999年から日越経済交流センターでは顧問・副理事長をした後、2001年9月からJICAの短期専門家という立場でラオスに4ヶ月ほど滞在しておりました。カンボジアには2003年が初訪問で、その後は毎年訪問しております。

2006年には、ハノイに投資運用会社を設立し、顧問の職に就任いたしました。この会社は、フウタイと言う未上場株式を所有しておりますが、最近この会社がファミリーマートと提携することを聞いております。

2 なぜ、いまベトナム・ラオス・カンボジアなのか

2000年になってからの実質GDP成長率のデータを見れば、ベトナムの成長率は2001年に6.9%から始まり2007年から8%台に成長し、2008年は世界同時不況の影響もあり、6.5%に下がっております。それを上回る成長率をラオスとカンボジアは達成しています。このようにベトナム・ラオス・カンボジアは、中国に次ぐ非常に高い成長率を達成していることがわかります。ミャンマーも成長率が非常に高かったのですが、民主化

運動の弾圧事件により5%に落ち込んでいます。

経済成長にとって、政治的な安定が非常に重要です。ベトナム・ラオス・カンボジアは、その点、政治的に安定していることが特徴になっています。アジアの中では、中国の次はメコン川流域3国と認識していただければと思います。

外貨準備高について見れば、日本は圧倒的に中国に負けており、日本経済の地盤沈下というか、アジアの中での位置づけが非常に寂しくなっております。かろうじて国内総生産(名目GDP)は日本が一番ですが、いずれ中国に追い越されると考えられます。

こういうことから、日本はこれからどうするのか、日本人がもっと考えなければならないし、アジアの中でどういう位置づけなのか、今後の発展の道をどう探っていくかが非常に重要な問題ではないかと思えます。これらが、最初の問題提起でございます。

3 中国の「南下政策」と日本のODA

東南アジアの地図を見ますと、アジア中国の内陸部、特に雲南省が、東方面の広州に抜けるよりも「南下政策」を取ろうということを確認して省の政策にしております。ミャンマー・ベトナム・ラオス・カンボジア・タイといった中国南部の地域に経済力を伸ばしているようにしております。

他方、インドはBRICSの中のIですが、明らかに大きな経済成長を示しています。この中国とインドに挟まれたインドシナ地域は発展しないはずはないであろうと思われれます。この地域に日本はODA(政府開発援助)の形で援助をしています。

この日本の意図は明らかです。中国だけがアジアの中で大きくなると、アジア全体の政府的安定や経済成長に問題があるので、中国の周辺地域を重点的に援助しようと日本は考えております。

東南アジア諸国の中の後発国CLMV(カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム)を重点的に支援するということを1990年頃から日本の外務省は基本政策としている現状がございます。単純に考えて中国とインドが発展すれば、この地域は放っておいても経済は発展するでしょう。そこに日本も影響力を維持しておこうということです。その代表が、東西経済回廊を始めとする陸路の物流インフラ整備の支援でございます。

7月11日の『日本経済新聞』夕刊は、日本が「メコン総合開発」を推進すると報道しております。今まではベトナム・ラオス・

カンボジアを別々にODAで支援していましたが、今後は地域全体の発展のための支援をするということです。

4 アセアン諸国の港湾

ジェトロのアセアン物流ネットワークマップ資料から抜粋した内容についてお話しいたします。まずベトナム北部の港、ハイフォンという有名な港よりも大型船が寄港できるカムフーなどハイフォン周辺の港が整備されております。

ダナン港は「東西経済回廊」の東の出入り口であり、この港湾整備も進行中です。中部ラオスと直結する港です。ホーチミン・カントーには港があり、サイゴン港は、つい最近に欧米資本によって新しい港をつくるという動きが『日本経済新聞』でも報道されています。ますますサイゴン港が発展していくことは間違いないと思います。

カンボジアのシハヌークビル港は日本のODAが援助し、現在のところ出荷量は非常に少ないのでシンガポール経由で荷物が動いています。隣接する経済特区が完成すれば、取り扱い貨物量の増加は確実です。カンボジアのプノンペン港はトンレサップ川に面しており、そこでの貨物取り扱いもあります。現在のところ、プノンペン経済特区に入居した工場を始めとしてプノンペン周辺は、ベトナムのサイゴン港まで陸路を使うケースが多いと聞いております。

このほかにミャンマーにはヤンゴン港がございます。インドシナ半島の港はこういうところが主でございます。是非、こういった港の視察を検討されることをお勧めいたします。

港と港を結ぶ陸路でございますが、前述のようにミャンマーからダナンを結ぶ東西経済回廊、雲南省からバンコクまで抜ける南北経済回廊、ホーチミンからプノンペンを通してバンコクに抜ける南部経済回廊があります。

ベトナム・カンボジア・ラオスの国境地帯を「開発の三角地帯」と日本政府は呼んでおり、安倍総理の時代から重点的に援助することを表明しております。この地域は、高原ですので農産物の開発が非常に盛んでございます。日本の食品メーカーは、この地域で農園を作ろうとしています。カンボジアのベトナム国境では、「業務スーパー」を展開している神戸物産が1,800haの農場を開発し、ゴボウ・ニンジンなど根菜を栽培して日本へ持ち帰ろうとしています。

中国食品が信用をなくしているのも、この地域の農産物がこれから日本に輸入されることが考えられます。いずれにいたしましても、港湾と陸路が一体として結ばれてこの地域のインフラ整備が次第に確実に進展していることがご理解いただければと思います。

5 CLV全体のビジネス環境

カンボジア、ラオス、ベトナムのビジネス環境ですが、簡単に申し上げて「成長国であるインド・中国の周辺国は成長する」ということです。ベトナムの高い成長に伴って隣国ラオス、カンボジアも自然に成長するということです。すでにベトナム企業がラオス、カンボジアに非常に進出しております。

ラオスは、皆さんには馴染みのない国だと思えますが、水力発

電が昔から非常に有名な国でございます。山岳地帯が多く、水量が豊富です。ダムを作れば、すぐに水力発電ができる。現在も、ナムグムという日本のODAで間組が作ったダムですが、タイに電力を輸出しています。最近では、ベトナムがラオスに水力発電を作りました。それをベトナムは自国に持って帰ることを予定しております。このように、メコン川流域経済の一体化・統合化が徐々に進んでおります。

また、韓国投資や中国の影響が、この地域は非常に大きいです。以前、カンボジアの日本大使館の篠原大使に会ったときの話ですが、日本政府のODAによる援助は多いが、民間の投資は非常に少ないと聞かされたことがあります。出遅れる民間投資、この地域ではハッキリ言えることです。

日本はODAで道路整備を行っており、鉄道インフラもこの周辺は発展していくと思います。主にフランス、アジア開発銀行等が援助し鉄道を作る。日本は道路を作る。さらに、ベトナムでは日本が協力して新幹線や高速道路、地下鉄も建設すると言っています。いずれも、日本のODAを核にして、その後にベトナムが建設国債を発行し、資金調達を行うなど近い将来に建設開発ブームになると思われます。

一部の報道では、ベトナム経済はダメではと言われておりますが、少なくとも昨年は6.5%、今年上期は3.5%の成長をしております。今年下期は、さらに政府の景気刺激策により成長の押し上げがあるのではないかと思います。私は、ベトナムについては心配しておりません。

それに対して、本日の本題ですが、更に2015年にアセアン共同体ができるということでございます。アセアン共同体の成立により、アセアン10カ国の関税をゼロ近くにして、自由な物の行き来が可能になります。アセアンがEU(ヨーロッパ共同体)のような形で2015年までに経済的な統合をさせることを宣言しているのです。そういう中、ベトナム、ラオス、カンボジアのような遅れた地域を放置することはまずあり得ません。

アセアン全体で遅れた地域を産業開発・経済発展のため支援を行い、日本も援助を行う。アセアンと日本を含めた合計6カ国(日本・インド・韓国・中国・オーストラリア・ニュージーランド)が自由貿易協定をアセアンと締結する。そのことにより2015年には32億人の市場ができる。想像できないようなことが起こるのではないかとされています。

ベトナムから日本に果物などの農産物が入ってくる。逆に、関税がゼロに近づき、日本の機械部品がベトナムに入る。ベトナムの部品産業が勝ち残れるかという心配が出てくる。いくら地元で安い物を作っても、品質が悪ければ誰も使いません。

日本で実施されるJICAの研修で、ベトナムの企業経営者に私は常に強調しています。「2015年まで少しの期間しかない、それに間に合わないのだめだ。急げベトナム!」と。このようにベトナムを中心にしてラオス・カンボジアの発展が今後のアセアン共同体の最大の成長センターになることを指摘したいと思えます。

6 ベトナム・ラオス・カンボジアの現状と課題

(1) ベトナムの課題:途上国から中進国へ

ベトナムは、賃金が非常に高く今年になっても最低賃金が20%上昇しています。これまでも、2006年に39%、2008年に15%と立て続けに上がっています。ベトナムはもはや低賃金の国ではないと言われる人もいます。

一方で、違法スライキや離職率が増加し、外国企業に対する税制優遇の廃止、汚職などが依然続いており、インフラ整備もまだまだと言われていますが、ある意味で賃金上昇も含め、途上国から中進国に移行しつつある状況で必然的に生じる問題ではないかと考えております。

事実、賃金引上げがあっても進出企業は生産性の向上を工夫したり、違法スライキに対してもベトナム政府は労働法を改正するなどしたりして官民は対応に一生懸命です。

日本とベトナムの関係を見ると、官民連携の投資環境改善の作業部会を設け、両国政府と民間企業が集まり投資環境の改善について話し合うなど極めて良好な関係にあります。日本側の企業が要求を出してベトナム政府側がその要求に真摯に応えているといった状況です。このような良好な関係は、世界的に見ても極めて珍しいのではないかと思います。

ベトナムは2020年までに工業国になるという路線を堅持しています。そのためには、語学堪能でビジネスの豊富な30代の若手経営者が、これからのベトナムを担っていくでしょう。さらにベトナム人は、儒教の精神が維持され、年配者を大事にし、義理・人情があり、また自分の国に対する誇りを持っている国です。日本人とは非常に相性が良いと言われていることがベトナムの特徴です。

ベトナムの政治は安定しておりますが、特に40歳代以上の戦中世代は、過去に苦勞した経験があり、社会の安定装置になっています。安定した社会の体制を守りたいという想いが社会の安定につながっていると思います。

ベトナムの人口構成は、40歳以下が70%を占め、今後、毎年120万人の出生数があり、10年後には人口1億人を突破し、東南アジア最大の消費大国になると言われております。また、原油を生産し、今年には石油精製コンビナートが中部に完成しました。今後、原子力発電所も建設する予定です。

越僑(海外在住ベトナム人)は世界に400万人ものネットワークを形成し、大阪にも数多くのベトナム人がいます。ベトナム人は世界一愛国心が高く、「国のために戦う」という青年が94.4%に達しております。こういう強い愛国心は、今の経済不況や将来の困難にも十分立ち向かえるでしょう。

日本とベトナムとは、昨年12月に経済連携協定(EPA)を締結しました。今後、関税を互いにゼロにし、人や物が自由に往来できるようになります。貿易の自由化だけでなく、人材育成、ソフトウェア開発、知的所有権なども日本は援助しながら、日本の人材不足をベトナムが補うという補完関係に基づいて両国がともに発展していくと思われれます。

現在、ハノイ周辺では80年代のソウル、90年代の上海の

ように高層ビルが立ち並んでおります。ロッセマート、サークルKのコンビニが新店しており、ファミリーマートやイオンも進出すると言っています。ホーチミン州にはハチ・ハチというベトナム人経営の百円ショップもあります。

ベトナムにおける日本企業も製造企業がどんどん進出しており、キャノンやホンダが、ハノイで生産を始めました。日本のサンヨーはパナソニックと経営統合されますが、ベトナムのサンヨーは洗濯機や冷蔵庫など白物家電のシェアはトップです。これからベトナムでは、中小企業が裾野産業として部品生産を行うなど、伸びていくと思われれます。

原材料について中国の場合は地元で手に入りますが、ベトナムでは原材料は高く、輸入に頼らざるを得ない状況にあります。裾野産業がまだまだ整備されておりません。しかし、日経ビジネスなどの情報を見ると、ベトナムのほうが中国よりも不良率が低い。ベトナム人は仕事が非常に丁寧で、日本人によく似ており、それがコスト高を十分に補っているところが、ベトナムの特徴と考えていただければと思います。

ベトナムは2007年1月に世界貿易機構(WTO)に入り、貿易自由化に踏み出し、銀行、証券、医療、保険、小売業等外資の受入れが100%可能となりました。現在は不自由なことで、WTOで公約しているため、外国資本にとって、今より良いことはあっても悪いことはないと考えられます。

ベトナムは、いまや低賃金ではないが、それでも中国に比べると半分から3分の2の水準です。トヨタやJUKIなどの企業では、ベトナム人を熟練工・多能工や技術開発者に養成することを試みています。また、「ものづくり」や「匠の技」と言われる日本の伝統的な品質へのこだわり等をベトナム人に継承させようと考えております。

日本の若者の場合、中小企業に蓄積された技術伝承を行なう人材が、人口の減少などで足りなくなっています。また中小企業で働くよりも手軽にコンビニなどで働く傾向が強い。こういうことから、技術の伝承をベトナム人と一緒に行おうという動きがあります。

株式にも注目してほしいと思います。ベトナムは一度上昇しバブル崩壊後に下がったけれど、また最近は上り始めています。日本の中小企業の方にとって、日本で株式上場は大変ですが、ベトナムの現地企業と組んでベトナムで上場し、資金調達を図り大企業に成長するというようなことが起こりうる国です。こんな夢をベトナムで描くこともできます。

(2) ラオスの急成長

ラオスは5カ国に囲まれた内陸国です。人口は560~570万人です。港のない国は発展しないといわれていますが、アジアの中では中国に次ぐ高い経済成長率です。タイと経済的・文化的に緊密で、ベトナムとは「特別の関係」と言われています。政治的にはラオス人民革命党の一党独裁であり、ベトナムとは近いと言えます。

ラオスではタイ語が通じるので、タイに進出した日系企業は、タイ人に工場長をさせるとともにラオスを任せたりします。タイ

人がラオス人に日本技術を教えたり指導したりしていますので、コストは非常に少なくてすみます。タイにメインの母体となる工場があって、その周辺にラオスの衛星工場を作るということが一つの成功モデルとみなされます。

タイにラオス人の不法労働者が40万人います。現在は、国内で仕事がありませんが、おそらく経済発展とともに雇用機会が増えれば、今後、国に帰ってきます。また人口の成長率もベトナムよりも高い。このように考えると、けっしてラオスの労働力は不十分と言えないと思います。

主に中国の援助で、今年12月にアセアン諸国のオリンピックのゲームがラオスで開催されます。メインスタジアムは中国の雲南省の会社が建設し、ラオス人は雇用せず、すべて中国人で建設するなど中国はラオスに経済的な影響力を広めているところでは。その見返りとして、中国が5万人を移住させると、首都ビエンチャンに1600haにもなる土地を求めましたが、ラオス人の猛反対に会い撤回しました。

通常、先進国は経済協力開発機構(OECD)に加盟しており、そのルールに従って途上国を援助します。民主化や貧困撲滅に役立つ支援や協力をする事となっていますが、中国はこの機構には入っていません。ここに問題があります。

ラオス経済発展の機関車は、観光、金や銅などの鉱物資源、手工芸品、水力発電等ですが、2011年にはWTOにも入る予定であり、来年10月10日には証券取引所ができます。証券市場ができると金融の流れも良くなります。そうすれば、民間企業も発展し面白い国になると思います。

また、ラオスの民間投資の中では韓国が非常に目立っています。2001年に私はラオス国立大学に勤務し、大学の教員を教えていたことがあります。この施設も日本のODAで建設されています。ここの学生は非常に優秀で、日本でいえば東大のようなところでございます。このような優秀な学生がどんどん社会に出ております。韓国も、日本と同じようにODAでルアンパバーン国立大学を建設しました。

タイのノンカイ駅とラオスのタナレーン駅の鉄道が開通しました。タイの援助により1日2回走っております。ラオスから鉄道輸送でバンコクまで荷物が運べる状況になっています。このタナレーン駅を拠点に鉄道がラオス全国に広がって行く計画になっております。このように着々とラオス経済は発展を続けています。

(3) カンボジアの着実な成長

日本の援助によりできたシハヌークビル港は、同じODAで輸出加工区を近くに作るようしており、この港はこれから発展していくのはまちがいありません。ラオスと同様にカンボジアにおける日本のODAは最大です。しかし民間企業の投資はこれからという状況です。

カンボジア人は礼儀正しく穏和だが、扇動されやすく、純真な国民性です。作家の司馬遼太郎氏(『人間の集団について:ベトナムから考える』)が「クメールの血が騒ぐ(アモック)」という言い方をしておりますが、頭にカーと血が昇りやすいという

ようなことが、カンボジア人にはあるのかと思います。しかし私の知る限り、非常に親日的で温和です。またクメール人の誇りをもっていると言われております。

カンボジアは、2004年にベトナムよりも早くWTOに加盟しており、経済も非常に自由化が進んでおります。ILOの規制により、15歳以下の児童労働も非常に厳しく禁止されています。多党制で民主国家の道を歩んでおります。自由な政治体制で、経済自由度が非常に高く、これからの発展性は十分にあると私は判断しております。

カンボジアには数カ所の経済特区・工業団地がありますが、プノンペン経済特区では日本人が常駐して、婦人靴製造の日本企業1社が操業しており、ヤマハや味の素の進出も決まっております。

またラオスと同様に韓国がいま大規模な不動産開発を進めております。韓国の李大統領が以前はカンボジアの経済顧問をしており、そういう意味でカンボジアと韓国とは非常に深い関係があります。また、韓国の援助で2010年に証券取引所ができる予定です。

ラオス、カンボジアと引き続いて株式市場ができるということで、ベトナムに続いてブームになることはまちがいなくと思います。

ユニクロがカンボジアで格安のジーンズを生産していることで有名ですし、シェムリアップ=アンコールワットのほかに魅力的な観光開発が可能と思われます。製造業は、中国やベトナムからの進出企業が増えるようにと思われます。

7 次のビジネス展開をどう考えるか

今、日本の不況が景気循環的であるとすれば、通常2~3年のうちに経済は回復するでしょうが、実際はそうでなく、今の不況は少子高齢化・財政赤字・人口減少・社会負担増加など構造的な問題があります。さらに国内市場を見ても、コスト削減とか差別化戦略の採用は指摘されますが、その実現はなかなか難しい。

多くの企業経営者は、海外進出は大変と言いますが、日本にいても大変なのは同じです。アジアの成長力を自社に導入し、アジアとともに日本企業も自分の会社も成長するということが、これから考えられる唯一の戦略と考えられます。

アジアとともに日本も成長する。その路線をどう組み立てていくかという答えは、早ければ早いほどよい。2015年にアセアン共同体ができます。アセアン憲章も昨年12月に発効されました。アセアンと組めば中国、インドとも組めることになり自由貿易圏もできます。

日本の役割は、おもてなしの心、品質へのこだわり、など日本人にしかない感性を維持し、それを伝承することだと思います。私は、司馬遼太郎氏(前掲書)が言うように「ベトナムとは非常に親近性があるいいんではないか」と思っております。いずれにしても、アジアの国々はこれから注目されるということでございます。

時間不足でラオスとカンボジアのお話が短くなりました。皆さまには、お詫びを申し上げます。ご静聴ありがとうございました。